



地域に向けてひとこと

文学は過去の思想・思考の集積であり、未来への指標となるものです。すぐさま直接の利益に結びつくものではありませんが、色々なものの考え方に触れることができます。

高城 翔平

Takagi Shohei

准教授 ・ 修士（文学）

地域に向けてできること

訪問講義

小中
学校

高校

一般
企業

科学・ものづくり教室

小中
学校

高校

一般
企業

英文学を通して自然環境や社会制度
を考える

研究室見学

小中
学校

高校

一般
企業

技術相談

研究テーマ

ユートピア社会は如何にして成立しているか、あるいはいないか

研究分野

●その他

研究キーワード

ユートピア文学、ウィリアム・モリス、オルダス・ハクスリー

SDGs



概要

ユートピア文学は、作者たちの実現し得ない理想を、物語の中にだけでも成立させようとした、試行錯誤の結晶と言えます。例えばウィリアム・モリスの『ユートピアだより』は、200年後のロンドンが舞台です。200年の間に共産主義革命が起こり、社会は変革しています。肉体労働と手作業を尊び、身近な装飾を芸術として愛する社会です。しかし本来「社会」とは、そのような簡単な言葉で表しきれるものではありません。私は、この社会の細かな実態を、描写される飲食物や衣類などから探っています。

アピールポイント

こうだったらいいのに、という夢や理想を社会の中に実現するのは難しいことです。あちらを立てればこちらが立たず。社会制度全般という規模でこの困難なパズルに取り組んだ作家たちの試行錯誤を解明することが、これからの社会を作っていく一助になればと思います。